



おぎ
だより

平成30年3月号

杉並区立井荻小学校

平成30年3月1日発行 No.596

～ 次年度に向けて ～

校長 小澤 伸生

校庭の桜の花芽もふくらみ、吹く風にも春の兆しを感じる今日この頃です。早いもので平成29年度も最後の月を迎えました。

この2月は大雪をもたらした寒波と、平昌冬季オリンピックの熱い風が日本列島を蓋いました。福井では立ち往生した自動車の列が30キロに渡ったと報道されていましたが、改めて雪国の生活の厳しさを感じました。冬季オリンピックは日本選手の逞しさを実感する機会となりました。昔、「日本の選手はどの競技でもプレッシャーさんに負けている。」という笑い話を聞いたことがあります。プレッシャーさんは勿論選手の名前ではありません。直前の怪我を乗り越えた男子フィギュアの羽生結弦選手、メダル獲得確実の期待に押しつぶされず、見事結果を残した女子スピードの小平奈緒選手など、かつて日本選手はメンタルが弱いといわれたのがウソのような活躍ぶりでした。

小平選手の活躍を報じる紙面に度々出てきたのは海外留学に関するエピソードです。全く言葉の分からないオランダへ一人で飛び込んで行き、実力を磨いたことが今回のメダルに繋がっているというコメントを多く目にしました。世界トップレベルの外国人選手と練習や試合をし、また私生活でも積極的に交わってきたことが、小平選手のメンタル面でも大きな刺激になったと報じられました。小さな日本列島を飛び出し、正にグローバルな規模での活躍を見せるこれからの日本人選手には、もはやメンタルの課題は全体のものでないでしょう。9日から始まるパラリンピックも楽しみです。

グローバルと言えば、あと一ヶ月で始まる平成30年度、そして31年度の2年間は、社会のグローバル化、情報化を見据えて改定された新学習指導要領の移行期間となります。「特別の教科道徳」や高学年の「外国語科」、プログラミング教育

導入が話題の中心になることが多い新学習指導要領ですが、私は今回の改訂の基本方針や理念から目を離さずに移行期を迎えることが大切だと考えています。

紙面の都合もあり、ここで全てを紹介することは不可能ですが、今回の改訂は「2030年の社会と子供たちの未来」を見据えた改訂です。少子高齢化、社会のグローバル化や情報化が更に進展すると考えられている2030年、そして更にその先の未来を自らの力で築いていく力を子供たちに育てていくために、これからの「学校の意義」の確認と、「開かれた教育課程」編成の重要性が前文に語られています。その背骨となるのはまさに地域や家庭、社会との学校の連携です。「学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々から構成される一つの社会である。」という文言や、「教育課程の実施に当たって、…学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。」といった文言からその主旨が読み取れます。

その様な視点から本校を振り返ったとき、井荻小には大きなアドバンテージがあるのに気付かされます。力強い学校支援本部いおぎ丸さんの存在です。本年度も様々な学習のサポートや土曜教室、学校環境の更新と、正に学校組織の一部として活躍して下さいました。本校が「社会との接点を持ちつつ、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境」であるためには不可欠な存在です。次年度もよろしくお願いをいたします。

さらに次年度は、一層の地域社会、家庭そして学校の連携を進めるべく、本校の地域運営学校への移行を予定しております。詳しくは年度が明けましたら、改めてご連絡いたします。

文末になりましたが、今年度、本校の教育活動にご支援ご協力を頂きました保護者、地域の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

～もうすぐ卒業～

《1組》

・私が小学校6年間で学んだことは、友達の大切さです。私が困ったり、忘れ物をしたりした時にいつも助けてくれたのですごくうれしかったし、友達の大切さを学びました。
秋山 彩音

・ぼくは、この小学校生活で、友達の大切さを学びました。ぼくは、この友達がいたから成長したと思います。学校生活が楽しく送れたのも、この友達がいたからだと思います。
前原 悠人

・ぼくは6年間で、友達の大切さを知りました。友達と協力したり助け合えたりしたので、学校生活をとっても楽しく過ごすことができました。

阿部 優生

・私が6年間の中で一番思い出に残っていることは富士学園移動教室です。その中でも部屋で過ごした事が思い出に残っています。共同生活の大切さが学べた3日間でした。

松下 遥香

・ぼくは、今日までに多くのことを学びました。その中でも、相手とのコミュニケーションの仕方がずいぶんよくなりました。この学んだことを中学校につなげていきたいです。

江川 勇理

・私の、小学校一番の思い出は、移動教室です。普段の授業ではできないことをやったり、生活班で共同生活したりすることで、みんなのことをより知れたからです。

宮川 真帆

・ぼくが特に小学校6年間の生活の中で成長したことは、身の回りの整理整頓です。ぼくは机に向かうことがふえると、自分で片づけられるようになりました。

大野 空楽

・私はこの6年間で、仲間と協力し、助け合うことを学びました。仲間と協力し、助け合うことでいろいろなことができるようになりました。この経験を生かしたいです。

森田 晏子

・私は、弓ヶ浜移動教室で友達と協力することを学びました。共同生活2泊3日を友達と助け合いながらできたので、すごく楽しかったです。

椛山 涼那

・僕が小学校生活で学んだ事は、はじめをつけて物事をする、ということと、人と団結して物事に挑戦するという事です。今までのことを活かして、これからも頑張っていきたいです。

山口蒼太郎

・5年の時から、移動教室が始まりました。前までは親のいないところで泊まるのがきん張していましたが、高学年になってからできるようになり、そこが成長したと思いました。

清野 拓哉

・井萩小学校では移動教室が心に残っています。移動教室では団体行動を学ぶことができたため、中学校に行っても忘れないようにしたいと思いました。

山澤 桜

・私が小学校生活で思い出に残っているのは、移動教室です。友達と協力して過ごした2泊3日は、とても有意義でした。中学の学校生活でも協力して過ごしていきたいと思います。

篠原 千乃

・1年生の時出来なかったことが出来たり、相手の気持ちも年々考えられたりできるようになってきました。1年生の時は、入学式はきんちょうしていたけれども、今学校はとっても楽しいです。

渡邊 嶺

・僕が6年間で一番思い出に残ったことは、弓ヶ浜移動教室です。弓ヶ浜でのサンドアートや磯観察、伊豆シャボテン公園など色々な事が体験でき、勉強になりました。

白土 元惟

・6年生で行った移動教室の生活班が思い出に残っています。班の皆と協力して過ごしたことをこれからの集団行動のときにかしたいと思いました。

中田 有紀

・ぼくはこの学校生活で、いろいろな思いを学びました。ぼくはうれしさ、悲しみ、怒りなどいろいろな気持ちを考えられるようになりました。楽しい学校生活でした。

西山 拓斗



《2組》

・ぼくは、この6年間でいろいろな人に支えられてきたと思います。運動会や学芸会、朝遊びでも、先生方やボランティアの人たちがいたので、楽しくできました。この6年間、本当にありがとうございました。

石川 泰地

・小学校生活でたくさんのことを学びました。勉強はもちろんですが、友達の大切さ、人に教える面白さも知りました。これらのことを忘れずに中学校生活や高校生活でも生かしていきたいです。

稲垣 葉月

・私は小学校生活で、悩んだり困ったりしたときに助けてくれた友達や両親に感謝したいです。そのことを忘れずにいたいです。

榎本 遥菜

・小学校生活をふり返って、ぼくはあきらめないで頑張る大切さを学びました。すぐできないとあきらめないで、できるまで続けるということを学んだので、中学でもこのことを活かしたいです。

大野 陽翔

・ぼくはこの6年間で、相手の気持ちを考える大切さがよくわかりました。こうしてしまったら傷ついてしまうとわかる「優しい人」になって、これからは「いい笑い」を作り出していきたいです。

岡田 翔也

・ぼくは、この小学校に入学した時、6年生にランドセルの入れ方などを優しく教えてもらい、とてもうれしかったです。そして、最高学年になってみんなをまとめられるように頑張りました。

加藤 七聖

・6年間一緒にいた友達とはなれてしまうけど、この思い出を忘れずに中学校に行っても頑張りたいです。小学校生活が終わるけど、これからまたスタートするのが楽しみです。

鹿野 愛乃

・私は、6年間を振り返って友達との協力の大切さを学びました。落ちこんだ時、友達にはげまされてうれしかったです。中学に入ったら、また友達とたくさん遊びたいです。今までありがとうございました。

神菌 愛海

・私は、6年間でいろいろな人に助けてもらいました。行事でも、自分たちだけではできないことを助けてもらったりしました。だから、私は中学校では、たくさんの人を助けられる人になりたいと思います。

小須田 翠子

・私は、学校生活をふり返って、協力することは大切なんだと思いました。どんな時でも、そばに仲間がいてくれて、支えてくれたときはとてもうれしかったです。中学校に行っても、仲間を大切に、協力していければと思います。

小林 琴美

・私は今までいろいろな人に支えられて生きてきました。だからその人に感謝して卒業したいです。そして、自分がおかしいと思うことと戦って生きていきたいです。

里見 遥花

・学校生活をふり返って、ぼくは団結力と集団行動の大切さなど、6年間でいろいろな大切なことを学びました。中学校に行っても、学んだことを忘れずにいたいです。

竹内 勇翔

・今まで、井荻小学校でたくさんの人に支えられ、勉強はもちろん、いろいろなことを学びました。集団行動するのは難しいけど、楽しかったです。中学校に行っても、井荻小学校でのことを忘れずに頑張っていきたいと思います。

長瀬 千咲子

・私が思い出に残ったのは移動教室です。移動教室では、たくさんのことを学びました。そのなかで、親に支えられているということを改めて感じました。この思いを忘れずに中学校でも頑張りたいです。

中村 菜都乃

・小学校生活で思ったことは、友達とやれば何でもできるということです。運動会でも、表現で5年生や6年生の友達と協力して成功させることができました。協力することの大切さを改めて感じました。

萩原 俊太

・小学校の6年間で様々な経験をしました。その経験は僕を大きく成長させてくれました。このことを忘れずに頑張っていきたいです。

福岡 佑太

・僕はこの6年間で友達の大切さに気付かされました。はっきり言って、4、5年の時は友達との間に自分で壁を作ってしまったので、6年になって友達の大切さに改めて気づかされました。中学校でも友達と仲良くしていきたいです。

細井 瞭

・ぼくは、この6年間でいろいろなことができるようになった。ノートをきれいにとったり、いい友達をつくったりすることできるようになりました。つらいこともあったけれど、成長できたと思います。

前田 一成

・小学校生活では、いろいろなことを学びました。でもやっぱり、いろいろな人に励まされたり助けられたりして成長した6年間だったと思います。これからは、自分から人に教えたいと思います。

米倉 圭唯

**一人一人が小学校生活6年間で、思い出に残ったこと、学んだこと、成長したことを振り返ってみました。
もうすぐ井荻小学校を巣立つ子供たち。中学校へ行ってもさらに成長していくことを楽しみにしています。**

3月行事予定

1	木	感謝集会 保護者会 (56年)	
2	金	保護者会 (34年)	SC
3	土	囲碁・お囃子	
4	日		
5	月	委員会	
6	火	保護者会 (12年)	
7	水	6年生を送る会 ふれあいタイム	
8	木	お話会①	
9	金	避難訓練	
10	土	土曜授業 善福寺川活動表彰	
11	日		
12	月		
13	火	避難訓練	
14	水	ふれあいタイム	
15	木	お話会②	
16	金		
17	土	囲碁・マナーキッズテニス	
18	日		
19	月		
20	火	給食終	
21	水	春分の日	
22	木	終了式 大掃除	
23	金	卒業式	
24	土		
25	日		
26	月	春季休業日始	
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

お話会は、どなたでもご覧いただけます。担任にご連絡ください。

スクールカウンセラー来校日・・・SC

おめでとうございます！

第21回「図書館を使った
調べる学習コンクール」
調べる学習部門 小学生の部
佳作 2年2組 黒川 透和子さん

杉並区青少年善行表彰式

3月10日(土)、井荻小学校の6年生の川、夢水路の活動が評価され、善行表彰されることが決定しました。代表児童が参加してまいります。

3月の生活目標

「感謝の気持ちを伝えよう」

生活指導部 中野 眞美

「ありがとう」は漢字で「有難う」、つまり『有るのが難しい』と書きます。当たり前と思っていることこそ、感謝すべき存在なのです。水道からきれいな水が出てくること、毎日の食事や洗濯して服が清潔なこと、仲良くしてくれる友達がいること・・・当たり前と思っていまいませんか。「わざわざ口にださなくても」なんて思わず、うれしい言葉は、声に出して相手に伝えましょう。

1年間お世話になった教室に感謝の気持ちを込めて、きれいにして引き継ぎます。身の回りの物も片付けしたり、きれいにしたりして新しい学年の準備をします。また、いつも一緒にいる身近な家族、友達やお世話になった周りの方々にも「ありがとう」の気持ちを伝え、1年間の締めくくりをしましょう。

お知らせ

現在、みんなの夢水路の工事現場に井荻小の子供たちの学習成果が掲示している最中です。水路が開園する7月頃まで掲示予定です。ご覧いただけると幸いです。また、2月27日、水路の横に6年生が植栽をしました。こちらも合わせてご覧ください。



6年生を送る会

特活部

今年度も3月7日に、全校児童による『6年生を送る会』が行われます。これまで学校全体をひっぱってくれた6年生のために、一緒に楽しめるゲームの準備をし、合唱・合奏の練習を重ねてきました。また、6年生の姿を思い描きながら考えた呼びかけの言葉を、プレゼントとして贈ります。

当日の装飾も、学年ごとに分担して準備をしています。これらの企画・運営を中心となって進めるのは5年生です。6年生を送る会は、児童会の引き継ぎの会でもあるのです。どの学年にとっても、心に残る会になることを願っています。